平成25年度大磯町行政評価　外部評価結果

No.	事業名	担当課	評価結果				評価コメント
			適当 A	改善・継続 B	見直し C	休・廃止 D	
1	海水浴場振興事業	産業観光課	―	―	○	―	大磯全体の観光ビジョンの中の一つのパーツとして発展させる必要がある。産業観光全体で収入をプラスとさせていけばビジネスプランとして成り立つ。海水浴場という資源をどう活用させていくのかを全体的な視点から捉えて積極的に果敢にアプローチしてほしい。
2	町営照ヶ崎プール管理運営事業		―	―	○	―	観光ビジネスを展開していく上で行政の広報だけでは限界があるので、NPO や観光協会などとタイアップして広報宣伝を積極的に実施することが必要。プールを総合的な観光資源として考える必要がある。観光プールと学校プールの仕分けを行い、事業主体の見直しを行う必要がある。
3	地球温暖化対策事業	環境美化センター	―	―	○	―	町として地球温暖化や温室効果ガスの削減を考えているのであれば、まずは町民の意識を変える政策を実施する必要がある。普及率等から判断して、太陽光パネル設置への補助金は廃止すべき。緑のカーテンの推進は継続すべきである。
4	妊婦健康診査事業	スポーツ健康課	―	○	―	―	法的解釈からすると現状で良しであるが、少子高齢化の時代、大磯町の人口増加や、子どもが育ちやすい環境を整えたいという町の一つのビジョンからすると必然性も必要性もある。拡充については、一つの事業で考えるのではなく、政策的に何をすべきかを考えていく必要がある。
5	世代交流センター（さざんか荘）運営事業	福祉課	―	―	―	○	さざんか荘が老人福祉センターでなくてはならないという根拠は条例であるので、条例を改正するなど、老人福祉センターとしての位置づけではなく、世代間交流をメインに考えて見直す必要がある。それにより、指定管理に繋げていくことが望ましい。
6	学校図書館運営事業	学校教育課	―	―	○	―	教育の町というのを掲げられるほどの行政の意識改革を抜本的にやってほしい。司書教諭に本来の業務をさせ、本を増やし、子ども達への指導を徹底させていただきたい。また、司書資格に拘らずにボランティアを活用するなど人員配置について工夫が必要。本の更新率は、全国平均よりさらに上を目指すくらいの意気込みをもってほしい。

※これらの結果は、町の最終判断ではありません。